

第4回宇都宮市上下水道事業懇話会 議事録

■ 日 時

令和4年7月12日（火） 午後2時00分～午後4時00分

■ 会 場

宇都宮市上下水道局 5階会議室

■ 出席者

- ・ 委 員：生野正満委員，太田正委員，小島弘義委員，齊木眞理子委員，櫻井誠委員，福嶋政江委員，三宅徹治委員，室恵子委員（50音順）
- ・ 局 側：上下水道事業管理者，経営担当次長，技術担当次長，副参事，経営企画課長，経営担当主幹，企業総務課長，サービスセンター所長，工事受付センター所長，水道管理課長，水道建設課長，下水道管理課長，下水道建設課長，水質管理課長，技術監理室長，事務局職員

■ 傍聴者数

2 名

■ 会議経過

1 開 会

2 懇 話

(1) 市民意識調査結果について

事務局より，資料1に基づき説明

G 委員： アンケートの回答者について，インターネット回答を始めたことで，若年層の割合が増えたのか。また，「普段，どのような水を飲用しているか」という質問について，ペットボトルの水を飲んでいる大学生が多く見られるように思うが，そのことが「そのままの水道水を飲んでいる割合」の減少に影響しているのではないか。

事務局： 回答者の年齢構成については，ほぼ動きがない状況である。

A 委員： アンケートの調査対象が2,500名（世帯）とのことだが、どのような人が対象か。

事務局： 世帯については契約単位のことであり、上下水道の契約者を対象にアンケートを送付している。

F 委員： 「そのままの水道水を飲んでいる割合」が半分くらいに下がってしまったことはショッキングである。若い人が水道水を飲まないということに注目をしなければいけない。ライフスタイルの問題もあると思うが、水道水の安全性に対する不安もあると思う。水道水の安全性については、ぜひ、これからの計画に反映していただきたい。

座長： 「どのような取り組みが重要だと思うか」との質問について、「古くなった施設・管路の更新」を要望する声が非常に増えている。これは上下水道局が進めている更新・耐震化の事業と市民のニーズが合致しているものと考えられる。また、お客様満足度の増減については様々な要因があるため、満足度を引き上げていくことを考えたときに、その要因などを分析する必要がある。

D 委員： 水道水の飲用について、平成29年のアンケートより「そのままの水道水を飲んでいる割合」が20%近く減少しているが、これが今後さらに減り続けると、水道料金の収入などに繋がると思うが、どのような影響が考えられるか。

事務局： 将来的には供給量の減少に繋がると考えられる。現状、直接的に水道水の供給量に影響を及ぼしているというわけではないが、引き続き、美味しい水道水を供給しているというPRをしていく必要がある。

座長： 供給している水量に占める飲用水の割合はそれほど大きくはないが、水道水を飲用するかどうかは、水道水への信頼性の問題に関わってくるため、非常に大きなファクターであると思う。

A 委員： アンケート調査は一般の家庭を対象としているのか事業者も含んでいるのか。

事務局： 水道料金のシステムが事業用と家庭用で分かれていないため、口径が30ミリ以上となる大口径については除外しているが、小口利用者で事業を行っている場合は含まれている可能性がある。

(2) 第2次宇都宮市上下水道基本計画中間見直し骨子案について

事務局より、資料2に基づき説明

F 委員： 柱1「安全で安心な水道水の供給」について、資料1の通り、水道水そのまま飲んでいる割合が減っている背景は、水道水への不安だと思う。なぜ若い世代が飲まないのか、周りにも意見を聞いてみたところ、水質に不安があるという意見があった。環境ホルモンやマイクロプラスチックが入っているという話もあった。安全に対する不安を払拭するには、丁寧な説明が必要と思われる。その媒体として、局が出している広報紙は非常に有効だと思う。ただ、若者は新聞の購読率が2割と、紙の媒体を読む割合が低く、若者に情報が届いてない部分がある。計画の中で、伝達方法を改善するよう検討してほしい。

C 委員： 「おいしい水の要件の適合」の指標について、評価がAという結果になっているが、アンケート調査では美味しくないという意見があった。上下水道局と市民の意見の差についてはどのように考えているか。

事務局： 厚生労働省の研究会が定めたおいしい水道水の要件7項目には全て達している。項目としては水温・塩素・臭いや水の硬さなどである。水道水と市販されている水を比較したとき、感覚的にギャップがあるものと思われる。先ほどF委員からも提言があったように、水道水の安全性やおいしさの要件などについて、よりわかりやすく伝わるよう、絵や写真を用いSNSなども活用しながら、積極的に広報していきたい。

C 委員： 一般市民としては、飲んで感覚的に美味しいか美味しくないかを判断している。美味しいと思えば宇都宮市の水道水を飲むと思う。なるべく水道水を利用すれば、高価なペットボトルを買わないで済む。宇都宮市の水道水が美味しいことが伝わるように取り組んでいただきたい。

座長： 認識のずれをどうしていくのかの分析や、具体的な方策を、評価の中に文言として加えたほうがよい。

G 委員： ペットボトルの水の備蓄が増えているが、備蓄水はローテーションしなくてはいけないため、ペットボトルの水を飲む量の増加につながっている可能性があると思う。

新型コロナウイルス感染症の関連で、水の需要やお客様からの問い合わせ、または上下水道事業に直接的な影響はあったか。あった場合、今後の

計画にコロナの影響を反映していくのか。それとも、影響は少ない、または一時的なものとして、考慮せずに計画を考えていくのか。

事務局： 令和2年度の使用状況については、ステイホームの影響で主に一般家庭向けの小口径では使用水量が増加しており、大口径の事業者については減少している。全体では使用水量も約0.1%程度減少している。令和3年度は2年目ということもあったのか、全体としては微減という状況である。

G委員： 水量以外にも、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた事業はあったのか。

事務局： 新型コロナウイルスへの対応として、イベントなどの実施内容を見直し、ICTの活用による対応を行っている。

事務局： 別の側面として、上海の工場閉鎖による半導体不足が電気通信機器の更新工事に影響を与えている。更新事業について、このようなリスクを踏まえなくてはならないことが分かっている。

C委員： 総括評価に「本格的な老朽管路の時代の到来」とあるが、「水道管の叫び」という書籍によると、老朽化した水道管に含まれる材質には発がん物質が含まれているという記述がある。宇都宮市の老朽管の更新状況を教えてほしい。

事務局： 老朽管更新の進捗状況については、宇都宮市内に約3,000kmの水道管があるなかで、令和元年度から令和9年度までの10年間で約245kmの更新を進めている。令和3年度までの実績では、30km弱(12.2%)を更新している。年間の更新率は大体20km0.6%程度である。

事務局： 書籍にある発がん性物質については、水道管の材質が亜鉛などの場合のことを問題にしていると思うが、宇都宮市の場合、古い管の入れ替えはある程度終わっており、ダクタイル管やポリエチレン管に更新を行っているため問題はない。

事務局： 老朽管路の更新状況等については、次回の懇話会で説明する投資財政計画の中で分かりやすいデータを提示していきたいと考えている。

F委員： 柱1の水道普及率、柱3の下水道有収率がB評価になっているが、数字上のものなのか、実際に達成しなかったものか、説明してもらいたい。

事務局： 水道普及率については、実際に目標値に達成しなかったものである。

事務局： 下水道の有収率について、下水道管は経年劣化や地震による損傷などによって雨水が不明水として流入し、汚水と一体になって処理場で処理されている。有収率の算出には不明水が影響しており、昨今のゲリラ豪雨等も要因となった結果、目標値に達していない状況のためB評価としている。

F 委員： 平成28年度より数値が下がっているが、雨水が想定外に入ってしまったということか。

事務局： 平成28年度から30年度までは有収率は向上したところだが、令和元年の台風19号で下がってしまった状況が続いている。ただ、不明水の流入対策として止水工事を行っており、特定の箇所では取組の効果が出ていることは確認しているが、なかなか数値に反映できていない。有収率の算定の仕方については、今後、計画の見直しの中で、目標値の設定や有収率の算定の仕方も視野に入れ検討していきたいと考えている。

事務局： 水道普及率については、拡張事業や、給水要望に応じて着実に進めてきたところであるが、井戸水の利用者もいる中で、目標には届いていないものである。

座 長： 下水道の有収率は、算定方式による影響はないのか。

事務局： 雨水量の算出方法が、現状の雨の降り方に合っているのかどうかを検証していきたいと考えている。

座 長： 算出方法を見直すと、数値としては上がる可能性が高いということか。

事務局： そこは難しいところだが、全国的にみると算定方式は一律ではなく、宇都宮市は中核市の中では有収率が下位の状況にある。全国的に調査をかけて、適切な算定方式を検証していきたい。

事務局： 下水道管の場合、水道管に比べて空洞があるため雨の降り方によって入ってくる雨水の量が変わってしまうこともあり、雨の影響を受けた数値になってしまう。そのため、雨の影響をどのように計算するのかを確立できていないところである。雨の影響をどのように排除できるかを工夫し検討しているところである。

F 委員： 上下水道局の頑張りが数字に表れないというのは残念であり、正確に伝わらないことにもなる。「集中豪雨がなければこういった結果だった」というように表示の仕方を工夫したほうが良いと思う。

座 長： 指標として使っていく限りは、正確な数値にしていきたい。

D 委員： 後期計画の構成案については非常に評価している。計画は生き物だと思うので、計画を時代に沿って変えていくのは良いことだと思う。

質問が二つあるが、一つは今年度あと2回懇話会があると思うが、どのような内容になるか。もう一つは、各種指標について、達成しているものは更に後期計画でハードルが上がるのか、それともそのままの目標でいくのかという指標のハードルを聞かせてもらいたい。

事務局： 見直しの中で課題も含めて検証しているところである。指標によっては後期計画で評価のハードルを上げるものもあるが、一方でこの指標が適切かどうかという検証も必要と考えている。指標自体の見直しや、先ほどの下水道の有収率のように数値の出し方の見直しも含めて検討していきたい。懇話会については、次回8月に追加で1回開催し、財政投資計画を示す予定である。

事務局： 全体のスケジュールについて、8月に投資財政計画について意見をいただいた後、計画素案についてお諮りしたうえで、年度内に完成する予定である。

D 委員： 柱5の「最良なサービスの提供」の水道の修理について、民間業者と実際にトラブルがないのかどうか不安がある。上下水道局の立場から、壊れた時の対処法などのアドバイスは可能か。

事務局： 水道のトラブルについては、上下水道局の配水管理センターという部署で問い合わせを受けるが、自宅内での水道の修理については、基本的に宇都宮市の登録業者で、近隣の何者かを紹介する形で情報提供を行っている。また、トラブルの報告はセンターの方では直接受けてははいないところである。

B 委員： 私は、水道水はやかんで沸かして飲んでいるが、委員の方は、市の水道をそのまま飲んでいるのか。

懇話会委員： （多数の委員がそのまま飲んでいるという意見）

C 委員： 私は、塩素の問題があるため、そのまま飲んでいない。

座長： 衛生管理上、残留塩素があるため、人によってはまずいと感じてしまう方もいるかと思う。

事務局： 塩素濃度が高いと、カルキ臭を感じて美味しくないと思う方もいる。一旦沸かして水温を20℃以下にすると、カルキが抜けて美味しさが増すので一度試していただければと思う。ただ、塩素を抜いた状態では早めに消費していただきたい。

座長： 柱7の「健全な経営の推進」について、指標が企業債残高となっており、企業債残高を抑えることが目標となっている。ただ、世代間の公平を

図り必要な財源の確保をするという点では、企業債も重要な財源の一つとして活用する必要がある。問題は、返せる範囲の中で適正な借金の残高になっているのかどうかである。この点については、給水収益に対する企業債残高という指標があるため、例えば、類似団体と比較しなから適正な指標を検討するなど、給水収益との関係で判断していくのがよいと考える。

(3) 内水ハザードマップの公表について

事務局より、資料3に基づき説明

座長： 内水ハザードマップは3月に配布したのか。

事務局： 3月にホームページに公表し、現在自治会を対象に回覧を行っており、今後、浸水想定区域の方に直接ポスティングする予定である。

B委員： 私は東地区の自治会長をやっているが、令和元年の台風19号では田川の被害が大きく、120台ぐらいの車が沈没してしまった地域である。そのため、自治会の委員会などで3回くらいはこの話を聞いている。1,000年に一度の降雨を想定しているという説明があったが、そう聞くと、説明の仕方によっては30年～50年くらいは大丈夫かと捉えてしまう方もいると思う。

事務局： 国のガイドラインを踏まえ、人命を守るため、想定できる最大のリスクを市民の皆様を示すということを考えて、今回は1,000年に1回という規模で算定している。

事務局： 1,000年に1回というのは、最大の降雨があった場合これくらいの被害があるという、一般に河川の計画や下水道の計画で使われる確率年の表現である。今日も1,000分の1、明日も1,000分の1の確率があるということである。

G委員： 1,000年に1回という表現より、1時間あたり何ミリの雨というように説明した方が分かりやすいのではないか。

事務局： G委員ご指摘の通り、今回はあくまで1時間あたり150ミリの雨を想定しているということを全面に押し出している。その根拠として1,000年に1回の降雨ということがある。また、ハザードマップで色が染まったところに関しては、内水氾濫の可能性があるので備えてもらうよう説明している。表現については、十分注意し周知を行っていく。

D 委員：最も危険とされる、色が赤い地域は宇都宮市内ではどこになるのか。

事務局：赤色は基準水位が3メートルから5メートルの箇所であるが、宇都宮市内では道路アンダーの3ヶ所が該当している。

3 その他

第5回懇話会 令和4年8月26日（金）開催予定

4 閉会